

1

- (1) ア : ㉔ (120) イ : ㉓ (84)
 (2) ウ : ㉒ $\left(\frac{x^2 - x + 1}{x - 2}\right)$ エ : ㉔ ($k > 1$)
 (3) オ : ㉑ $\left(-\frac{1}{2}\right)$ カ : ㉒ $\left(\frac{2}{5}\right)$
 (4) キ : ㉑ $\left(\frac{\sqrt{3} + 1}{2}\right)$ ク : ㉒ $\left(\frac{\sqrt{3} - 1}{2}\right)$

■ 解説 □

(1)

ア 母音 a, e と子音 b, c, d の合計 5 個を 1 列に並べて得られる順列の総数は、 $5! = 120$ 通りである。

イ 余事象「両端とも子音」を考える。両端に子音 3 個から 2 個を並べる方法が $3 \times 2 = 6$ 通り、残り 3 個を中央に並べる方法が $3! = 6$ 通りより、両端とも子音である並べ方は $6 \times 6 = 36$ 通り。よって、少なくとも一方の端に母音のある並べ方は $120 - 36 = 84$ 通りである。

(2)

ウ 分母は $x^2 - 3x + 2 = (x - 1)(x - 2)$ 。分子に $x = 1$ を代入すると 0 となるので $(x - 1)$ が因数であり、 $x^3 - 2x^2 + 2x - 1 = (x - 1)(x^2 - x + 1)$ を得る。よって、

$$\frac{x^3 - 2x^2 + 2x - 1}{x^2 - 3x + 2} = \frac{(x - 1)(x^2 - x + 1)}{(x - 1)(x - 2)} = \frac{x^2 - x + 1}{x - 2} \quad (x \neq 1)$$

エ $k > 0$ とする。曲線と直線が異なる 2 つの共有点をもつための条件は、方程式 $\frac{x^2 - x + 1}{x - 2} = kx + 1$ が $x \neq 2$ の範囲で異なる 2 つの実数解をもつことである。 $x \neq 2$ のもとで両辺に $(x - 2)$ を掛けて整理すると、

$$(1 - k)x^2 - 2(1 - k)x + 3 = 0 \quad \dots (*)$$

$k = 1$ のとき (*) は $3 = 0$ となり不適。 $k \neq 1$ のとき、(*) が異なる 2 つの実数解をもつ条件は $D > 0$ である。

$$\frac{D}{4} = (1 - k)^2 - 3(1 - k) = (1 - k)(-2 - k) = -(1 - k)(k + 2)$$

$D > 0$ より $(1 - k)(k + 2) < 0$ であり、 $k > 0$ より $k + 2 > 0$ であるから、 $1 - k < 0$ 、すなわち $k > 1$ が得られる。

逆に $k > 1$ のとき $D > 0$ が成り立ち、また $x = 2$ を (*) に代入すると $3 = 0$ (不適) となるから、(*) の 2 解はいずれも $x \neq 2$ を満たす。以上より、求める必要十分条件は $k > 1$ 。

(3)

3点 $A(\alpha, 1, 2)$, $B(1, \beta, -1)$, $C(2, 0, -3)$ が一直線上にあるとき, $\overrightarrow{AB} = t\overrightarrow{AC}$ となる実数 t が存在する.
 $\overrightarrow{AB} = (1 - \alpha, \beta - 1, -3)$, $\overrightarrow{AC} = (2 - \alpha, -1, -5)$ より,

$$1 - \alpha = t(2 - \alpha), \quad \beta - 1 = -t, \quad -3 = -5t$$

第3式より $t = \frac{3}{5}$. 第2式より $\beta = 1 - \frac{3}{5} = \frac{2}{5}$. 第1式より $1 - \alpha = \frac{3}{5}(2 - \alpha)$ を解いて $\alpha = -\frac{1}{2}$.

$$\text{以上より, } \alpha = \underline{\underline{-\frac{1}{2}}}, \quad \beta = \underline{\underline{\frac{2}{5}}}.$$

(4)

$\alpha = 1 - i$ とする. 複素数 α に対応する複素数平面上の点を A とし, 原点 O と点 A を2頂点とする正三角形の第3の頂点を表す複素数 β を求める.

線分 OA を1辺とする正三角形の第3の頂点は, α を原点中心に $\pm 60^\circ$ 回転させた点であるから,
 $\beta = \alpha(\cos(\pm 60^\circ) + i \sin(\pm 60^\circ))$ である.

+60° 回転の場合:

$$\beta = (1 - i) \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2}i + \frac{\sqrt{3}}{2}i + \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{\sqrt{3} + 1}{2} + \frac{\sqrt{3} - 1}{2}i$$

-60° 回転の場合:

$$\beta = (1 - i) \left(\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{1}{2} - \frac{1}{2}i - \frac{\sqrt{3}}{2}i - \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{-\sqrt{3} + 1}{2} - \frac{\sqrt{3} + 1}{2}i$$

β の虚部が正であるのは +60° 回転の場合 ($\frac{\sqrt{3} - 1}{2} > 0$).

$$\text{以上より, } \beta = \underline{\underline{\frac{\sqrt{3} + 1}{2}}} + \underline{\underline{\frac{\sqrt{3} - 1}{2}}}i.$$

2

- (1) 1 x
- (2) $-x \cos x + \sin x$ $\frac{\pi^2}{8} - 1$
- (3) $\frac{\pi}{4}$ $\frac{3}{4}\pi$
- (4) $\left(\frac{x^2}{2} - \frac{1}{4}\right) \sin 2x + \frac{x}{2} \cos 2x$ $\pi \left(\frac{5}{16}\pi^2 - \frac{1}{2}\right)$

■ 解説 □

- (1) $f'(x) = 1 \cdot \sin x + x \cdot \cos x = \sin x + x \cos x$ より,
 $f'\left(\frac{\pi}{2}\right) = \sin \frac{\pi}{2} + \frac{\pi}{2} \cos \frac{\pi}{2} = 1 + \frac{\pi}{2} \cdot 0 = 1$

点 $\left(\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right)$ における曲線 C_1 の接線 ℓ の方程式は,

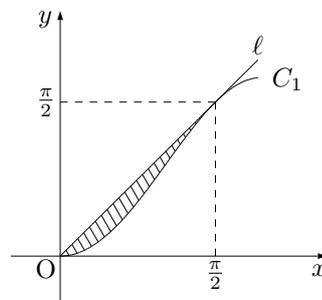
$$y = 1 \cdot \left(x - \frac{\pi}{2}\right) + \frac{\pi}{2} = x$$

- (2) 部分積分法を用いると,

$$\int x \sin x \, dx = x(-\cos x) - \int 1 \cdot (-\cos x) \, dx = \underline{-x \cos x + \sin x} + C$$

$0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において, $x \geq x \sin x$ が成り立つので, 直線 ℓ が曲線 C_1 より常に上側にあるため, 求める面積を S とすると,

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (x - x \sin x) \, dx \\ &= \left[\frac{x^2}{2} - (-x \cos x + \sin x) \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= \left(\frac{\pi^2}{8} - \sin \frac{\pi}{2} \right) - (0 - 0) \\ &= \underline{\underline{\frac{\pi^2}{8} - 1}} \end{aligned}$$



- (3) $0 \leq x \leq \pi$ において $f(x) = g(x)$, すなわち $x \sin x = x |\cos x|$ を解く.
 $x = 0$ は共有点の x 座標の 1 つであるから, $x \neq 0$ のとき $\sin x = |\cos x|$ の解について考える.

$0 < x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, $\sin x = \cos x$ であり, $\sin x - \cos x = \sqrt{2} \sin \left(x - \frac{\pi}{4}\right) = 0$ より,

$$x = \underline{\underline{\frac{\pi}{4}}}$$

$\frac{\pi}{2} \leq x \leq \pi$ のとき, $\sin x = -\cos x$ であり, $\sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin \left(x + \frac{\pi}{4}\right) = 0$ より,

$$x = \underline{\underline{\frac{3}{4}\pi}}$$

(4) 部分積分法を2回用いると,

$$\begin{aligned}
 \int x^2 \cos 2x \, dx &= x^2 \cdot \frac{1}{2} \sin 2x - \int 2x \cdot \frac{1}{2} \sin 2x \, dx \\
 &= \frac{x^2}{2} \sin 2x - \int x \sin 2x \, dx \\
 &= \frac{x^2}{2} \sin 2x - \left\{ x \left(-\frac{1}{2} \cos 2x \right) - \int \left(-\frac{1}{2} \cos 2x \right) dx \right\} \\
 &= \frac{x^2}{2} \sin 2x + \frac{x}{2} \cos 2x - \int \frac{1}{2} \cos 2x \, dx \\
 &= \frac{x^2}{2} \sin 2x + \frac{x}{2} \cos 2x - \frac{1}{4} \sin 2x + C' \\
 &= \underbrace{\left(\frac{x^2}{2} - \frac{1}{4} \right) \sin 2x + \frac{x}{2} \cos 2x + C'}
 \end{aligned}$$

$\frac{\pi}{4} \leq x \leq \frac{3}{4}\pi$ において, $\sin x \geq |\cos x|$ であるから,

$$f(x) - g(x) = x \sin x - x |\cos x| = x(\sin x - |\cos x|) \geq 0$$

よって, $\frac{\pi}{4} \leq x \leq \frac{3}{4}\pi$ において, 曲線 C_1 が曲線 C_2 より常に上側にあり, かつ $x |\cos x| \geq 0$ により曲線 C_2 は常に x 軸の上側にあるため, 求める立体の体積を V とすると,

$$\begin{aligned}
 V &= \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} \pi \{f(x)\}^2 \, dx - \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} \pi \{g(x)\}^2 \, dx \\
 &= \pi \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} \{(x \sin x)^2 - (x |\cos x|)^2\} \, dx \\
 &= \pi \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} (x^2 \sin^2 x - x^2 \cos^2 x) \, dx \\
 &= \pi \int_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} (-x^2 \cos 2x) \, dx \\
 &= -\pi \left[\left(\frac{x^2}{2} - \frac{1}{4} \right) \sin 2x + \frac{x}{2} \cos 2x \right]_{\frac{\pi}{4}}^{\frac{3}{4}\pi} \\
 &= -\pi \left\{ \left(\frac{9}{32} \pi^2 - \frac{1}{4} \right) \cdot (-1) - \left(\frac{\pi^2}{32} - \frac{1}{4} \right) \cdot 1 \right\} \\
 &= -\pi \left(-\frac{10}{32} \pi^2 + \frac{2}{4} \right) \\
 &= \pi \left(\frac{5}{16} \pi^2 - \frac{1}{2} \right)
 \end{aligned}$$

$$\boxed{3} \quad \boxed{\text{ア}} (4, 3) \quad \boxed{\text{イ}} -\frac{1}{2} \quad \boxed{\text{ウ}} 2\sqrt{2} \quad \boxed{\text{エ}} -\frac{4}{3} \quad \boxed{\text{オ}} 0 \quad \boxed{\text{カ}} \left(\frac{8}{5}, -\frac{1}{5}\right) \\ \boxed{\text{キ}} -\frac{89}{25} \quad \boxed{\text{ク}} \frac{105}{16}$$

■解説□

$$\text{直線 } \ell: kx + y - (4k + 3) = 0$$

$$\text{円 } C: x^2 + y^2 - 2y - 3 = 0 \iff x^2 + (y - 1)^2 = 4$$

円 C は中心 $A(0, 1)$, 半径 2 である.

(1) 直線 ℓ の式は

$$k(x - 4) + (y - 3) = 0$$

これを k の恒等式とみて

$$x - 4 = 0, y - 3 = 0 \quad \text{すなわち} \quad x = 4, y = 3$$

よって, 直線 ℓ が通る定点 P の座標は $P(\boxed{4, 3})_{\text{ア}}$

(2) 直線 ℓ が $A(0, 1)$ を通るとき

$$k \cdot 0 + 1 - (4k + 3) = 0$$

を満たすので

$$k = \boxed{-\frac{1}{2}}_{\text{イ}}$$

$k = -1$ のとき, 直線 $\ell: y = x - 1$

直線 ℓ と円 C は 2 点 $(2, 1)$, $(0, -1)$ で交点をもつ.

この 2 つの交点を結ぶ線分の長さは $\boxed{2\sqrt{2}}_{\text{ウ}}$

次に, ℓ と C が異なる 2 点で交わるための必要十分条件は, 円 C の中心 A と ℓ の距離を d として

$$(\text{中心と直線の距離}) < (\text{半径}) \quad \text{すなわち} \quad d < 2$$

$$d = \frac{|k \cdot 0 + 1 - (4k + 3)|}{\sqrt{k^2 + 1}} = \frac{|4k + 2|}{\sqrt{k^2 + 1}} = \frac{2|2k + 1|}{\sqrt{k^2 + 1}}$$

なので

$$\frac{2|2k + 1|}{\sqrt{k^2 + 1}} < 2 \quad \text{すなわち} \quad |2k + 1| < \sqrt{k^2 + 1}$$

両辺非負より, 2 乗して

$$(2k + 1)^2 < k^2 + 1$$

整理すると

$$k(3k + 4) < 0$$

$$\text{よって} \quad \boxed{-\frac{4}{3}}_{\text{エ}} < k < \boxed{0}_{\text{オ}}$$

(3) $k = -\frac{4}{3}$ のとき, l は

$$-\frac{4}{3}x + y - \left(4 \cdot \left(-\frac{4}{3}\right) + 3\right) = 0 \quad \text{すなわち} \quad y = \frac{4}{3}x - \frac{7}{3}$$

このとき, $d = 2$ であるから, C と l は接する.

共有点 Q は第 4 象限の接点である.

l に直交する直線の傾きは $-\frac{3}{4}$ であるから, l に直交するベクトルの 1 つに $\vec{n} = (4, -3)$ がある.

ここで, \vec{AQ} と \vec{n} は同じ向きで, $|\vec{AQ}| = 2$ (半径), $|\vec{n}| = 5$ より $\vec{AQ} = \frac{2}{5}\vec{n}$

$$\vec{OQ} = \vec{OA} + \vec{AQ} = (0, 1) + \frac{2}{5}(4, -3) = \left(\frac{8}{5}, -\frac{1}{5}\right)$$

よって, 点 Q の座標は $\left(\frac{8}{5}, -\frac{1}{5}\right)$ である.

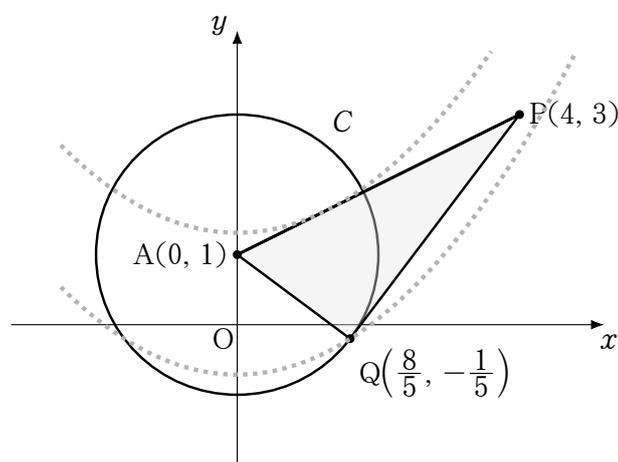
(4) 点 (x, y) が三角形 APQ およびその内部を動くとき

$$t = 5y - x^2 \quad \text{すなわち} \quad y = \frac{x^2}{5} + \frac{t}{5} \quad \dots\dots ①$$

が表す t の最小値と最大値を求める.

① は頂点 $\left(0, \frac{t}{5}\right)$, 下に凸の放物線である.

① が三角形 APQ と共有点をもって, t が最小または最大になる点を考える. そのときの t が最小値, 最大値になる.



t が最小になる点は, 点 Q か点 P のいずれかであるが,

$$\text{点 } Q\left(\frac{8}{5}, -\frac{1}{5}\right) \text{ における } t \text{ の値は } t = 5 \cdot \left(-\frac{1}{5}\right) - \left(\frac{8}{5}\right)^2 = -\frac{89}{25}$$

$$\text{点 } P(4, 3) \text{ における } t \text{ の値は } t = 5 \cdot 3 - 4^2 = -1$$

$$-\frac{89}{25} < -1 \quad \text{であるから } t \text{ の最小値は } \boxed{-\frac{89}{25}}$$

t が最大になる点は辺 AP 上にある.

$$\text{線分 } AP : y = \frac{x}{2} + 1 \quad (0 \leq x \leq 4) \quad \dots\dots ②$$

三角形の周または内部の点は $y \leq \frac{x}{2} + 1$ を満たすことから

$$t = 5y - x^2 \leq 5\left(\frac{x}{2} + 1\right) - x^2 = -x^2 + \frac{5}{2}x + 5 = -\left(x - \frac{5}{4}\right)^2 + \frac{105}{16} \leq \frac{105}{16}$$

ゆえに $t \leq \frac{105}{16}$

等号が成り立つのは $y = \frac{x}{2} + 1$ かつ $x = \frac{5}{4}$ (これは $0 \leq x \leq 4$ を満たす)

よって、 t の最大値は $\frac{105}{16}$ である。

ク の別解例

① と ② を連立して

$$\frac{x^2}{5} + \frac{t}{5} = \frac{x}{2} + 1 \quad \text{すなわち} \quad \frac{x^2}{5} - \frac{1}{2}x + \frac{t}{5} - 1 = 0$$

この2次方程式の判別式を D として

$$D = \left(-\frac{1}{2}\right)^2 - 4 \cdot \frac{1}{5} \left(\frac{t}{5} - 1\right) = -\frac{4}{25}t + \frac{21}{20}$$

$D = 0$ とすると $t = \frac{105}{16}$

このとき、重解は $x = \frac{5}{4}$ であるから、① と ② が接する点は辺 AP 上にある。

よって、 t の最大値は $\frac{105}{16}$ である。

4

■ 解答例 □

2 個のサイコロの出た目の和 S を表にまとめると右の通りであるので、2 個のサイコロを 1 回投げる毎に、

S	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

- 点 P が移動しない確率は、 $\frac{6}{36} = \frac{1}{6}$
- 点 P が隣の 3 頂点のいずれかに移動する確率は、

$$\frac{30}{36} = \frac{5}{6}$$

- (1) サイコロを 1 回投げたとき、点 P が頂点 A にいる条件は、「点 P が移動しない」ことであるので、求める確率 a_1 は、

$$a_1 = \frac{1}{6}$$

また、サイコロを 1 回投げたとき、点 P が頂点 B にいる条件は、「点 P が頂点 B に移動する」ことであるので、求める確率 b_1 は、

$$b_1 = \frac{5}{6} \times \frac{1}{3} = \frac{5}{18}$$

- (2) サイコロを 2 回投げたとき、点 P が頂点 A にいる条件は、

- 点 P が $A \rightarrow A \rightarrow A$ と移動しない
- 点 P が $A \rightarrow B \rightarrow A$ と移動する
- 点 P が $A \rightarrow C \rightarrow A$ と移動する
- 点 P が $A \rightarrow D \rightarrow A$ と移動する

以上 4 パターンあり、互いに排反であるので、求める確率 a_2 は、

$$a_2 = \left(\frac{1}{6}\right)^2 + \left(\frac{5}{18}\right)^2 + \left(\frac{5}{18}\right)^2 + \left(\frac{5}{18}\right)^2 = \frac{7}{27}$$

- (3) サイコロを n 回投げたとき、

点 P が頂点 C にいる確率を c_n 、

点 P が頂点 D にいる確率を d_n

とすると、 $a_n + b_n + c_n + d_n = 1 \dots\dots\dots$ ①が成り立つ。

また、(1) と同様に考えると、 $c_1 = \frac{5}{18}$ 、 $d_1 = \frac{5}{18}$ である。

n 回目と $(n+1)$ 回目に注目すると、サイコロを $(n+1)$ 回投げたとき、点 P が頂点 A にいる条件は、

- n 回目に点 P が頂点 A にあり、移動しない
- n 回目に点 P が頂点 B にあり、頂点 A に移動する
- n 回目に点 P が頂点 C にあり、頂点 A に移動する
- n 回目に点 P が頂点 D にあり、頂点 A に移動する

以上 4 パターンあり、互いに排反であるので、漸化式を立式すると、

$$a_{n+1} = \frac{1}{6}a_n + \frac{5}{18}b_n + \frac{5}{18}c_n + \frac{5}{18}d_n \dots\dots ②$$

同様に考えると、

$$b_{n+1} = \frac{5}{18}a_n + \frac{1}{6}b_n + \frac{5}{18}c_n + \frac{5}{18}d_n \dots\dots ③$$

$$c_{n+1} = \frac{5}{18}a_n + \frac{5}{18}b_n + \frac{1}{6}c_n + \frac{5}{18}d_n \dots\dots ④$$

$$d_{n+1} = \frac{5}{18}a_n + \frac{5}{18}b_n + \frac{5}{18}c_n + \frac{1}{6}d_n \dots\dots ⑤$$

ここで、② - ③ より、

$$a_{n+1} - b_{n+1} = -\frac{1}{9}a_n + \frac{1}{9}b_n = -\frac{1}{9}(a_n - b_n)$$

数列 $\{a_n - b_n\}$ は、初項 $a_1 - b_1 = \frac{1}{6} - \frac{5}{18} = -\frac{1}{9}$ 、公比 $-\frac{1}{9}$ の等比数列であるので、

$$a_n - b_n = -\frac{1}{9} \cdot \left(-\frac{1}{9}\right)^{n-1} = \left(-\frac{1}{9}\right)^n$$

以上より、 $b_n = \underbrace{a_n - \left(-\frac{1}{9}\right)^n}_{\dots\dots ⑥}$

② - ④ および ② - ⑤ より、同様に考えると、 $c_n = d_n = a_n - \left(-\frac{1}{9}\right)^n \dots\dots ⑦$

これらを ② に代入すると、

$$a_{n+1} = \frac{1}{6}a_n + 3 \cdot \frac{5}{18} \left\{ a_n - \left(-\frac{1}{9}\right)^n \right\} = \underbrace{a_n - \frac{5}{6} \left(-\frac{1}{9}\right)^n}_{\dots\dots ⑧}$$

(4) ⑥, ⑦ を ① に代入すると、

$$a_n + 3 \left\{ a_n - \left(-\frac{1}{9}\right)^n \right\} = 1$$

$$4a_n = 3 \left(-\frac{1}{9}\right)^n + 1$$

$$a_n = \underbrace{\frac{3}{4} \left(-\frac{1}{9}\right)^n + \frac{1}{4}}_{\dots\dots ⑨}$$

$\left| -\frac{1}{9} \right| < 1$ であることから、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ \frac{3}{4} \left(-\frac{1}{9}\right)^n + \frac{1}{4} \right\} = \frac{1}{4}$$

別解 ((3) の ⑤ 以降)

(3) ここで、③ - ④ より、

$$b_{n+1} - c_{n+1} = -\frac{1}{9}b_n + \frac{1}{9}c_n = -\frac{1}{9}(b_n - c_n)$$

数列 $\{b_n - c_n\}$ は、初項 $b_1 - c_1 = \frac{5}{18} - \frac{5}{18} = 0$ 、公比 $-\frac{1}{9}$ の等比数列であるので、

$$b_n - c_n = 0 \cdot \left(-\frac{1}{9}\right)^{n-1} = 0$$

③ - ⑤ より、同様に考えると、 $b_n - d_n = 0$

以上より, $b_n = c_n = d_n$ が成り立つので, ① より,

$$a_n + 3b_n = 1$$

$$b_n = -\frac{1}{3}a_n + \frac{1}{3}$$

これらを ② に代入すると,

$$a_{n+1} = \frac{1}{6}a_n + 3 \cdot \frac{5}{18}b_n = \frac{1}{6}a_n + \frac{5}{6} \left(-\frac{1}{3}a_n + \frac{1}{3} \right) = -\frac{1}{9}a_n + \frac{5}{18} \dots\dots\dots \textcircled{8}$$

(4) ⑧ を式変形すると, $a_{n+1} - \frac{1}{4} = -\frac{1}{9} \left(a_n - \frac{1}{4} \right)$

数列 $\left\{ a_n - \frac{1}{4} \right\}$ は, 初項 $a_1 - \frac{1}{4} = \frac{1}{6} - \frac{1}{4} = -\frac{1}{12}$, 公比 $-\frac{1}{9}$ の等比数列であるので,

$$a_n - \frac{1}{4} = -\frac{1}{12} \left(-\frac{1}{9} \right)^{n-1}$$

$$a_n = -\frac{1}{12} \left(-\frac{1}{9} \right)^{n-1} + \frac{1}{4}$$

$\left| -\frac{1}{9} \right| < 1$ であることから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ -\frac{1}{12} \left(-\frac{1}{9} \right)^{n-1} + \frac{1}{4} \right\} = \frac{1}{4}$$